2015 年 6 月 6 日（土）　15：30～18：30

公開シンポジウム（2 階 206 講義室）＜組織者＞ **吉田 良生**（椙山女学園大学）

地域人口は消滅するのか?

＜座長＞ **原 俊彦**（札幌市立大学）

＜討論者＞ **樋口 美雄**（慶應義塾大学）　**鈴木 透**（国立社会保障・人口問題研究所）

1）人口急減に対応する地方創生へのプロセス・・・ **五十嵐 智嘉子**（一般社団法人北海道総合研究調査会）

2）人口減少と地方創生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**加藤 久和**（明治大学）

3）人口減少社会における第 2 次国土形成計画・・・・・・・・・・・・・**奥野 信宏**（中京大学）

【趣意書】

人口減少社会は持続不可能な社会である。社会は、たとえ現在過剰人口であるとしても長期にわたって人口が減少すれば社会はやがて消滅してしまい持続不能となるので、人口減少はどこかの時点で止めなければならない、との判断は広く共有されているところである。しかし、その緊急性については、まだかなり先のことだからこれから考えればよいだろうという楽観論もあり、評価は分かれる。

日本創成会議の地域人口推計が注目を集めている。これは人口移動、特に女性の人口移動に注目して推計したものである。多くの地方都市がやがて消滅する可能性があるという推計結果は社会に大きな影響を与えた。地域社会では人口減少が着実に進んでいるが、これがどんな結果をもたらすのか、確信がもてないまま不安だけが蔓延していたところに「消滅の可能性」という結果が出されたことによって人口減少に対する対策の緊急性が改めて確認されたということであるといってよい。

この注目度の高い人口問題に対して日本人口学会としてもなんらかの解答を用意する必要があるのではないか。地域社会に対する関心は、地方の疲弊が叫ばれ、政府が地方創成をうたう今日的情勢を考えれば、今後さらに強まっていくことが予想される。地域再生計画が立案されることになれば、人口減少対策は最も重要な構成部分として位置づけられることになろう。学会としての見解を問われる機会も増えていくことが予想されるので、シンポジアムを通じて学会として広く議論し、共通認識の可能性を探ってみたい。